

第13回連続講座『いのち』を考える ～悲しみとともに生きていく～ 講師プロフィール (敬称略)

日程	講師	プロフィール
1/24 (火)	藤井 理恵 (ふじい りえ) 淀川キリスト教病院 チャプレン (病院牧師) 【演題】 たましいの痛みに寄り添う ～ターミナルケアの現場から～	兵庫県神戸市生まれ。神戸女子薬科大学卒業、製薬会社に勤務の後、関西学院大学神学部編入学。神学研究科(修士課程)修了後、日本基督教団関西学院教会伝道師、副牧師を経て、平成3年より淀川キリスト教病院チャプレン(現在ホスピス担当チャプレン。がんライフサポートプログラム「大切な人をなくされた方のサロン」担当)。臨床パストラルカウンセラー(PCCAJ:日本パストラルケア・カウンセリング協会認定)。著書に『増補改訂版 たましいのケア 病む人のかたわらに』(いのちのことば社、共著)、『わたしをいきる』(いのちのことば社)。
1/31 (火)	田村 里子 (たむら さとこ) 一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部 部長 【演題】 いのちに寄りそう ～悲しむ人のかたわらで～	北星学園大学社会福祉学部社会福祉学研究科修士課程修了。昭和60年より東札幌病院(悪性新生物に係る専門病院)にて、医療ソーシャルワーカーとして緩和ケア病棟を中心に30年ほどがん患者とその家族への相談援助に従事。平成26年より一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所理事 がん・緩和ケア部部長として、がん・緩和ケア領域を中心に患者・家族・遺族からの個別の相談援助やグループ実践に加え、ソーシャルワーカー等対人援助職の養成教育と現任者のための実践的なワークショップを実践。
2/7 (火)	末永 和之 (すえなが かずゆき) すえなが内科在宅診療所院長 【演題】 まるごといのち ～悲しみを乗り越えて生きるために～	昭和22年山口市生まれ。昭和49年鳥取大学医学部医学科卒業、昭和53年鳥取大学大学院医学研究科修了、昭和54年山口赤十字病院内科副部長。平成2年、一人のがん患者との出会いをきっかけにホスピスに取り組む。平成11年山口赤十字病院緩和ケア病棟開設、緩和ケア科部長、副院長を経て、平成25年山口赤十字病院定年退職。同年4月すえなが内科在宅診療所開設、在宅診療に取り組む。今まで4000人以上を看取り、現在がん患者を中心に年間60人以上の方の人生の最終章の傍らに寄り添う。その他、山口赤十字病院名誉ホスピス長、日本緩和医療学会暫定指導医、日本死の臨床研究会顧問、NPO日本ホスピス緩和ケア協会監事など。著書に『いのちの響-ホスピスの春夏秋冬』(青海社)、『ゆうにゆうにまあるくまあるく』(木星舎)など。
2/14 (火)	細井 順 (ほそい じゅん) 公益財団法人近江兄弟社ヴォーリス記念病院ホスピス長 【演題】 生死を超えた『いのち』にであうとき ～かなしみから教わること～	昭和26年生まれ。昭和53年大阪医科大学卒業。自治医科大学講師(消化器一般外科)を経て、平成5年淀川キリスト教病院外科医長。平成7年に父親を胃がんのために同病院ホスピスで看取ったのをきっかけに、平成8年外科医からホスピス医に転向。平成10年から愛知国際病院、平成14年からヴォーリス記念病院でホスピスケアを行う。平成16年に自身も腎がんと診断され右腎摘出手術を受けた。平成25年には、ヴォーリスホスピスを舞台にしたドキュメンタリー映画『いのちがいちばん輝く日～あるホスピス病棟の40日～』が全国公開。著書に『死をおそれないで生きるーがんになったホスピス医の人生論ノート』(いのちのことば社)、『希望という名のホスピスで見つけたこと』(いのちのことば社)など。
2/21 (火)	米虫 圭子 (こめむし けいこ) 京都産業大学学生相談室主任カウンセラー 【演題】 それぞれの悲しみ ～遺族の語りから～	京都産業大学英米語学科卒業。ユナイテッドステイツインターナショナル大学大学院臨床心理学部博士課程前期修了、カウンセリング心理学修士号取得。臨床心理士。専門分野は遺族ケア、喪失の心理。米国ホスピスにてグリーフカウンセラーとして遺族ケアに携わり、平成13年帰国後、ホスピス・病院の遺族会ファシリテーター、グリーフケアについての講演・研修会などの啓発活動を行っている。
2/28 (火)	田村 恵子 (たむら けいこ) 京都大学大学院医学研究科教授 がん看護専門看護師 【演題】 がんと共に生きる人を支える ～地域での取り組み～	聖路加看護大学大学院前期博士課程修了。大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了(医学博士)。平成9年のがん看護専門看護師を取得。わが国における専門看護師のパイオニアの一人。また、わが国における末期がんに対するホスピスケア(緩和ケア)の草分けである淀川キリスト教病院で27年間看護師を務める。平成26年1月から京都大学大学院医学研究科教授。ホスピスでがん患者を最期まで看取り、家族の看護にも取り組む姿がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で平成20年に放映され、反響を呼ぶ。平成24年には「奇跡のホスピス～人生の“わすれもの”ってなんですか?～」(MBS制作)主人公・田辺礼子のモデルとなる。著書に『余命18日をどう生きるか』(朝日新聞出版)、『看護に活かすスピリチュアルケアの手引き』(青海社)など。